

福岡県飯塚市幸袋 築 120 年古民家『聴福庵』 2017 年のあゆみ③

第 2 2 号 2017 年 7 月 31 日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

『小暑』 7 月 7 日～7 月 22 日頃

小暑（しょうしょ）とは、梅雨が明け、暑さが本格的になる頃です。
蝉も鳴き始め、暑中見舞いを出すのもこの頃です。暑い夏を乗り切る
ために、たくさん食べ、体力をつけておきたいところです。

（暦生活：<http://www.543life.com/season.html>）

今回、7 月 18 日～24 日まで、聴福庵に滞在していました。

朝は目覚まし時計代わりに蝉が鳴き、一日のはじまりを教えて
くれます。眠気眼に夏の陽射しは眩しいくらいですが、

「よし、今日もやるぞ！」と、そんな気にさせる熱い聴福庵での
夏がはじまりました。

2017 年 7 月 18 日（火）

厨房の天井に敷き詰める煤竹の水拭き&蜜蝋磨き

（富山県にある築 200 年の古民家から煤竹を譲り受けました。）

煤を被った竹を水拭きし、蜜蝋で磨いていくときれいな飴色が
輝き出します。長さも太さも異なり、中には癖のある曲がった
竹まで様々です。一本一本丁寧に 60 本磨いていきました。

2017 年 7 月 19 日（水）

厨房の天井に簾、煤竹を敷き詰める作業

天井の作業は作業がしづらく中々進みません。

竹の大きさに合わせながら、針金で仮止めしていきます。

突然の通り雨もあり、布団しまうなど屋内作業が続きました。



煤（すす）を払うときれいな飴色が！



蜜蝋で磨いた煤竹を天井に！

2017年7月20日（木）

厨房の天井に煤竹を敷き詰める作業、柳川へ移動

前日に続き、厨房の天井に煤竹を敷き詰め作業、紐で本留めし作業完了。むき出しの天井が煤竹で敷き詰められ雰囲気が一変しました。午後は福岡県柳川市へ移動。うなぎのせいる蒸し発祥の元吉屋さんへ。そして、灯り舟に乗り込み夜の柳川を体験し、宿泊は柳川藩主立花邸 御花という料亭旅館に宿泊しました。



煤竹を紐で結び天井を敷き詰めます

2017年7月21日（金）

柳川、八女、秋月地区見学

※詳細は次号にて配信致します。

2017年7月22日（土）

神社掃除、井戸掘り、漆喰の糊づくり

朝食前に1時間ほど神社掃除。井戸を掘りはじめ1mほど掘り、井戸屋へ連絡。機材を使い埋まっていたパイプを抜き出し、パイプの長さから深さ6m程の井戸と判明。また、左官職人さんと土壁に塗る漆喰の糊づくりを行いました。海藻をじっくり煮詰めて濾して天然の糊を作っていました。



漆喰の糊づくり

2017年7月23日（日）

井戸掘り、外装塗装、茅乃舎で夕食

前日に引き続き、午前中は井戸を掘り2.4m地点まで到達。また、外壁をべんがらで塗装。屋内では左官の小林さんが井戸の土を利用して作るおくどさんのサンプルづくりを行っていました。厨房に照明をつけ煤竹が明かりを演出してくれます。夕食はダシの研究のため、茅乃舎へ。



外壁をべんがらで塗装



井戸掘り開始!



埋まっていたパイプ管を機材でカット



抜き出したパイプ管 全長 6m



梯子がないと出れない深さに!

2017年7月24日(月)

漆喰塗り、掃除

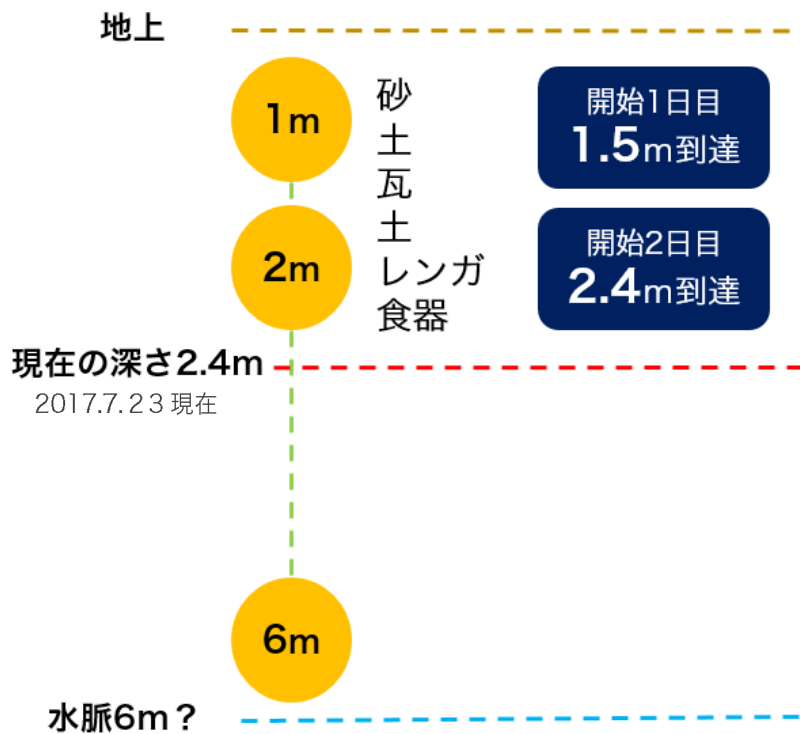
左官の小林さんに漆喰塗りを教わりながら実施。見ていると、簡単そうですがやってみるとコテの動かし方が非常に難しい。イメージとしてはスノーボードのエッジを立てるような感覚に似ていますが、素人と職人さんとはその差は歴然です。今後も各部屋で漆喰塗りを行っていく予定です。

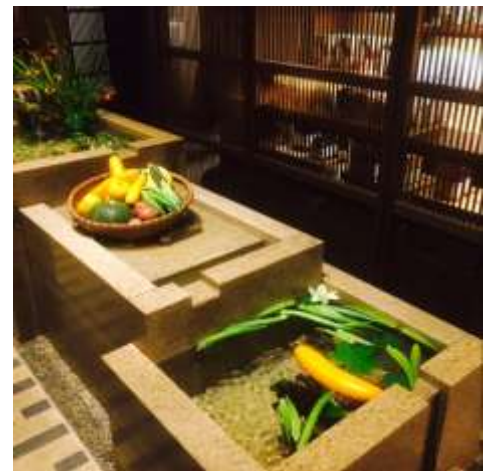
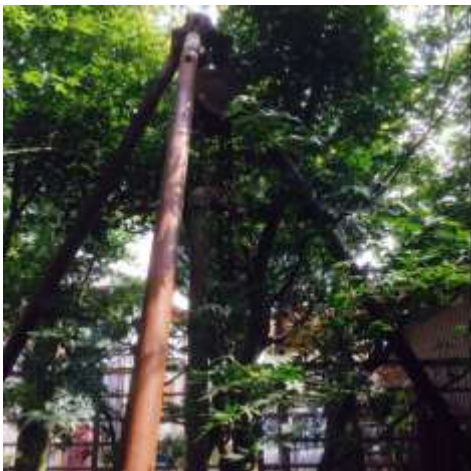
井戸掘りプロジェクト始動

ある方から「水神様が出たがっている」。その一言が井戸を掘るきっかけとなり、2017年6月23日宮司様に井堀祭を執り行って頂きました。

坪庭にあった井戸は土で埋められ、その形跡は丸く淵取られそこに井戸があったであろうということを推測するしかない程の跡でした。

そして、2017年7月22日 井戸掘りを開始しました。







富山の古民家から譲って頂いた煤竹

聴福庵を通して感じること

「まっくるくるすけ出ておいで〜！」ジブリ映画『となりのトトロ』に出てくるワンシーンを観たことがある方も多いのではないのでしょうか。

「まっくるくるすけ」というキャラクターは、古い家に住み着き、そこから中を煤と埃だらけにしてしまい、子どもにしか見えないようで、「ススワタリ」というジブリが創り出した架空の妖怪のようです。

今回、富山県にある築200年の古民家から煤竹を譲り受けました。竹を手にとると煤で真っ黒になります。それを一本一本磨いていくと、きれいな、きれいな飴色が顔を覗かせます。

昔の家屋は木を燃やして煮炊きしたので、柱や天井がだんだんと黒くなり、木材に染み付いた煤は防虫効果を発揮したと言います。

はじめて聴福庵を訪れたとき、何もない厨房になぜか寂しい想いをしました。それが今では、竈で炊いた炊き立てご飯を食べられたり、譲って頂いた水屋箆笥には食器の数々、解体される古民家から譲って頂いた棚には自家製梅酒がずらりと並んでいます。

磨くほど輝きを放つ竹を眺めていると、「本当に200年前のもの？」と自分の目を疑いたくなります。それだけ、以前のお宅で大事に使われていたことを感じます。「まっくるくるすけ出ておいで〜！」と探す子が現れる、それは私にとってちょっとした願いでもあるのです。

煤に触れる機会は今の時代ほぼなく、200年前の煤竹も子ども達へ見せてあげたい、そんなことを思います。子どもたちへ譲っていけるまで、今はしっかりこの場所を守っていきたい、そんなことを思っています。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)

●過去のバックナンバー

第19号

織姫さん、機織りに何想う

第20号

第44回保育環境セミナー前編

第21号

第44回保育環境セミナー後編

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。